

20120528

2012年5月28日　日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 組織改正と人事異動

6月1日に組織改正と人事異動で新体制を発足させる。局長および局長級14人のうち12人が替わり、部長99人のほぼ半数の49人が異動、若手の登用等を行った。狙いは、10月の認定放送持株会社への移行に先行した体制強化、指揮命令系統の簡素化、アナウンス部の強化等。

2. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率

先週の週間視聴率は、全日が1位。1月からの年間平均視聴率は現在「三冠王」だが、4月からの年度視聴率では少し反省する部分もある。

・ 4月改編

4月改編は、一部の新番組で期待ほどの視聴率を獲れていないが、一喜一憂せず、足場をしっかり固めたい。また、力を蓄え、視聴者の皆さん、およびスポンサー各社に支持される良い番組を作っていくこうという基本姿勢は変わらない。

・ 7月新番組

7月の新ドラマは、水曜22時に井上真央さん主演の「トッカン 特別国税徴収官」。井上さんは日本アカデミー最優秀主演女優賞を獲得、力のある旬の女優として期待している。

土曜21時に仲間由紀恵さん主演の「ゴーストママ捜査官～僕とママの不思議な100日」。仲間さんの持ち味を存分に發揮して頂ける、独特な間合いのコメディを目指す。

・ ロンドンオリンピック

メインキャスターは嵐の櫻井翔さん。キャプテンとして明石家さんまさん、週末の「Going! Sports & news」でスポーツニュースの顔でもある上田晋也さんをスペシャルセンターに起用。アスリートコメンテーターとしてアジア人初のオリンピック3連覇の柔道、野村忠宏選手が出演する。

・エコウィーク

恒例のエコウィークは「つなげよう、eco ハート ~幸せのカタチ~」をテーマに、6月3日(日)から10日(日)まで実施。

関連するイベントを6月8日、9日、10日に、日本テレビ汐留本社で開催する。井手綾香さん、SKE48、キマグレンを始めとした特別ライブも予定。

スペシャルを含め番組35本をエコウィーク関連で放送、6月20日からの「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」に先立ち、ブラジル取材も行う。6月5日(火)21時からはエコ特別番組「超体験！タイムワープ旅行社」を放送する。

・ドラマ「クレオパトラな女たち」

一般的にドラマは、特番や大型単発番組等で放送回数が変わる。今回は6月に「仰天ニュース祭り」を企画する関係で、あと2回で終了する予定。視聴者の皆さんに楽しんで頂けるよう、最後まで質の高いドラマを製作していく。

3. 営業状況と放送外収入

・営業状況

2011年度通期の放送収入は、前年度比102.0%となった。タイムセールスは前年度比102.8%、スポットセールスは前年度比101.2%。タイムセールスの伸び率が他局に比べて大きいほか、タイムセールス、スポットセールス合わせての伸び率も民放キー局で最も高い成績を獲得した。レギュラー番組がスポンサー各社に支持された事によるカロリーアップも大きな要因。

新年度は、単発セールスでエコウィークが前年を上回る売上見通し。スポットセールスは、4月が前年同月123.3%、前々年同月比113.9%。5月も前年同月比約136%、前々年同月比約116%と順調に推移。

・放送外収入

映画「名探偵コナン 11人目のストライカー」が興行44日間で266万人、興行収入31億6,000万円。昨年の「名探偵コナン 沈黙の15分」を現時点で上回っている。

通販事業の前年度実績は民放局中1位。

イベントは「大エルミタージュ美術館展 世紀の顔・西欧絵画の400年」が開幕、7月16日まで国立新美術館にて開催。現時点で総入場者数13万4,700人と好調。恒例の丸美屋食品ミュージカル「アニー」は5月13日で終了、観客数2万6,500人と盛況だった。

4. その他

・節電とテレビ使用

電力不足になった場合、企業も個人も様々な形で節電に取り組む必要があるが、テレビは節電関連を含め様々な情報を伝達する重要な情報提供機関の一つであり、こういう時にこそテレビの価値、社会的役割を見直して頂けるのではないか。

・「news every.」特集

4月25日放送の「news every.」特集「食と放射能 水道水は今」がBPO放送倫理検証委員会で審議入り。利害関係者をユーザーとして登場させた事は極めて残念で、遺憾。審議の推移を見守り、調査等には全面的に協力していきたい。チェック体制の点検等にはすでに着手しているが、改めて社内体制を再点検し、再発防止に全力を挙げたい。

昨年の「news every. サタデー」の問題で再発防止策を講じ、基本的に社員、スタッフ共に全員認識しているが、一部に常駐ではない社外スタッフもあり、徹底していかなかった部分もあるかもしれない。

この二つの事例は全く同じではなく、前回は店舗側がユーザーは社員である事を取材者側に伝え、取材者側もそれを承知して取材した。今回は企業側にユーザーを紹介してもらったが、その時点で企業側もユーザーが利害関係者である事を把握せず、取材者も知らされないまま取材を行った。しかし、もっと徹底してユーザーと企業の関係を調べれば防ぐ事ができた。その意味で確認が十分でなかつた点は率直に認めざるを得ない。結果論として、利害関係者を登場させた事は、視聴者の皆さんをミスリードする事になりかねず、やるべきではなかつた。

・タレント「次長課長」の河本準一さんについて

河本さん本人が記者会見し、母親が受給した生活保護費の一部を返納すると発表、反省している。今後、新たな問題がなければ、番組出演をこの事に関連して特に問題視しなくてもいいのではないか。また番組出演は編成や制作現場が様々な観点から決めていく事だ。

・番組テロップ等について

5月4日放送の番組で、新聞のテレビ欄と番組中のテロップが視聴者の皆さんに誤解を与えた恐れがある。当社は常に「視聴者ファースト」の姿勢で番組の製作・放送を目指しており、誤解を与えたとしたら正さなければいけない。バ

ラエティー番組等で視聴者の皆さんに不快な思いを抱かせる編集や表現については、社内シンポジウムを開催し、様々な検討もしている。

・読売ジャイアンツ

4月は不調であったが、最近は10連勝したほか、交流戦でも首位、セ・リーグで中日に次いで2位。戦力強化が花開いたもの。チームの第一段階の目標である交流戦優勝を強く期待したい。

(了)